

一昨廿日水戸様御藩士五千人程江戸江罷登候二付、人馬差出候様
 先触有之旨中貫宿より注進有之候付探索差出候所、一向様子
 之相付申上之旨申上候様、田中源藏と申者之徒數十人押参
 以方より真鍋口江固増人数差出置候所、朝五ツ時過俄二真鍋町へ
 向放發致し一時二燃上り、猶又真鍋口へ向放發致候二付、一番手方
 五番手人数早速出張防禦手配仕候所、其内立田廓の方へ忝組
 相廻候旨注進有之候付、其方へも際差出、采女正差図被在候内
 城内へも一圓灰冠候へとも飛火等無之、真鍋町家者大数不残焼失

【四〇頁】

(二十六) 田中源藏之徒數十人押参り真辺・立田廓江砲発に付防禦方

差出届書

一昨廿日水戸様御藩士五千人程江戸江罷登候二付、人馬差出候様
 先触有之旨中貫宿より注進有之候付探索差出候所、一向様子
 不相分、昨廿一日至右御人数二者田中源藏と申者之徒數十人押参
 候旨二付、真鍋口江固増人数差出置候所、朝五ツ時過俄二真鍋町へ
 向放發致し一時二燃上り、猶又真鍋口へ向放發致候二付、一番手方
 五番手人数早速出張防禦手配仕候所、其内立田廓の方へ忝組
 相廻候旨注進有之候付、其方へも際差出、采女正差図被在候内
 城内へも一圓灰冠候へとも飛火等無之、真鍋町家者大数不残焼失

中時生口^法打、放發^法後、臨卷^法引揚罷在

別手^法而立田口^法之方、又候大町^法之方等へも人数相廻し候付、諸方へ防

禦等手配御座候

一 常名墓新廓へも鉄炮打掛放火致候二付、此方よりも鉄炮打掛、浪士共

散乱致候、尤右放火二而一兩軒焼失仕候段采女正在所表方申越候間

此段御届申上候、以上

六月廿二日

大目付觸

土屋采女正家来
上田小兵衛

横濱鎖港之儀ハ松平大和守退役二付而者兼而御委任二付、水戸殿専ら

【四一頁】

四ツ時頃真鎮^鍋（鍋）敵方より折々放發いたし、其後真鍋臺江引揚罷在、
別手ニ而立田口之方、又候大町之方等へも人数相廻し候付、諸方へ防
禦等手配御座候

一 常名墓新廓へも鉄炮打掛放火致候二付、此方よりも鉄炮打掛、浪士共
散乱致候、尤右放火二而一兩軒焼失仕候段采女正在所表方申越候間
此段御届申上候、以上

六月廿二日

土屋采女正家来
上田小兵衛

(二十七)大目付觸

大目付觸

横濱鎖港之儀ハ松平大和守退役二付而者兼而御委任二付、水戸殿専ら

中川芝繁、由光、營被有之候間、此段心得ため向々へ可被相觸候、

一 六月五日夜五ツ時頃御達有之、心懸被仰付候得ハいつれも
勇氣に早リ出張ニ候由、然者右檜觶ハ先達テ日光邊へ
罷在候浪士とも當月朔日叡山越いたし、洛中江入込候
段内々向々方達し有之候へとも一向手掛も無居候処、同五日
新徴組ニ而怪しき者老人召捕、屯所江連行品々拷問ニ
及候所、白状いたし候趣不容易大膽之巧有之、徒黨多
人数忍居候ケ所々々明白ニ及、其形會津家へ訴ニ相成、夫方
新徴組會津勢・所司代勢共夫々手配、夜中召捕ニ相廻
浪士老人江新徴組老人、又ハ五人なれハ六人差向ケ清水三年

【四二頁】

御引受繁々御登 營被有之候間、此段心得ため向々へ可被相觸候、
一 六月五日夜五ツ時頃御達有之、心懸被仰付候得ハいつれも

勇氣に早リ出張ニ候由、然者右檜觶ハ先達テ日光邊へ
罷在候浪士とも當月朔日叡山越いたし、洛中江入込候
段内々向々方達し有之候へとも一向手掛も無居候処、同五日
新徴組ニ而怪しき者老人召捕、屯所江連行品々拷問ニ
及候所、白状いたし候趣不容易大膽之巧有之、徒黨多
人数忍居候ケ所々々明白ニ及、其形會津家へ訴ニ相成、夫方
新徴組會津勢・所司代勢共夫々手配、夜中召捕ニ相廻
浪士老人江新徴組老人、又ハ五人なれハ六人差向ケ清水三年

坂屋料理店浪士五人止宿之旨申出候二付、捕手六人
 相向候所二階罷在候趣二付一度ニ馳上候得ハ拾五人並居候付
 捕手も相違し右体を見て彼より刃向候故無止事
 戦争ニ及候所へ半之丞始多人數参り合助太刀及候所、浪
 士共叶ぬと敷おもひしや、或ハ逃ケ或ハ被切倒、其内頭分之者
 強勇ニ而鐘壺本突生捕繩懸、亭主江預ケ、逃るを
 追行き、引返し生捕を尋候所、逃候趣二付直様追懸
 候所四五丁向ニ而追付、又々鐘ニ而突留繩懸ケ候儘三条邊へ
 連参候由右頭分之者長州ニ而
三石も取御歴々之上と申事也右騒ニ而二階下ニ居候土州藩寐
 卷之俣ニ而大小を小脇ニ挟ミ逃出候を見付捕押姓名取尋

【四三頁】

坂 曙屋料理店ニ浪士五人止宿之旨申出候二付、捕手六人
 相向候所二階罷在候趣二付一度ニ馳上候得ハ拾五人並居候付
 捕手も相違し右体を見て彼より刃向候故無止事
 戦争ニ及候所へ半之丞始多人數参り合助太刀及候所、浪
 士共叶ぬと敷おもひしや、或ハ逃ケ或ハ被切倒、其内頭分之者
 強勇ニ而鐘壺本突生捕繩懸、亭主江預ケ、逃るを
 追行き、引返し生捕を尋候所、逃候趣二付直様追懸
 候所四五丁向ニ而追付、又々鐘ニ而突留繩懸ケ候儘三条邊へ
 連参候由右頭分之者長州ニ而
三石も取御歴々之上と申事也右騒ニ而二階下ニ居候土州藩寐
 卷之俣ニ而大小を小脇ニ挟ミ逃出候を見付捕押姓名取尋

其の腹も此迄水もとて許合中、會津勢參蹙
 候得共答も無、遁れむと而已諍合候中、會津勢參蹙
 二而腹を突候得ハ助命無覺束思ひしや土州藩淺井
 某と名乗候付何れも大驚き人違ひ之段、右之次第
 詫併以前方御姓名相尋候へとも一向御答も無之故、
 相成候段、土州屋敷江届可申、鑓疵如何と尋候所、
 無之乍申、腸洩れ出候故、夫々介抱し翌朝新徴組、
 屋敷江引取候所、土州方壯士六拾人計、技身之鑓を提
 詰候付、會津役人罷出段々之始末對談二及候所、
 漸承知引取候趣、新徴組當時余り荒々しき事共有之
人違と乍申其高麗を憎土州も立腹之由翌日新徴
 組頭近藤勇并會津方五人醫師連れ土州江見舞二
 參、容鉢尋候而、逢む趣申入候得共、土州方二而ハ一端逃去

【四四頁】

候得共答も無、遁れむと而已諍合候中、會津勢參蹙
 二而腹を突候得ハ助命無覺束思ひしや土州藩淺井
 某と名乗候付何れも大驚き人違ひ之段、右之次第
 詫併以前方御姓名相尋候へとも一向御答も無之故、
 相成候段、土州屋敷江届可申、鑓疵如何と尋候所、
 無之乍申、腸洩れ出候故、夫々介抱し翌朝新徴組、
 屋敷江引取候所、土州方壯士六拾人計、技身之鑓を提
 詰候付、會津役人罷出段々之始末對談二及候所、
 漸承知引取候趣、新徴組當時余り荒々しき事共有之
人違と乍申其高麗を憎土州も立腹之由翌日新徴
 組頭近藤勇并會津方五人醫師連れ土州江見舞二
 參、容鉢尋候而、逢む趣申入候得共、土州方二而ハ一端逃去

一 祇園茶屋或ハ木屋町三条邊宿屋々々潜居候浪士
 生捕切捨凡之拾人程之由
 一 會津勢六百之内足輕式人被討候儀ハ浪士ニ被欺
 候趣、手負も随分有之由ニ御座候
 一 新徴組六拾人之内式人手負、内老入藤堂某強勇之
 者深手ながら相手兩人打果候よし
 一 桑名勢五人即死、怪我多分有之、生捕老人有之由
 一 三条宿屋々々より逃去候者之内河原町長州屋敷江
 逃入らんとせしを門弟入れ不申、不得止堀へ五人計
 乗入らむとするを無残鐘ニ而突留候よしニ御座候
 一 六日分捕長持七棹

【四六頁】

候よし也

一 祇園茶屋或ハ木屋町三条邊宿屋々々潜居候浪士

生捕切捨共、凡三拾人程之由

一 會津勢六百之内足輕式人被討候儀ハ浪士ニ被欺

候趣、手負も随分有之由ニ御座候

一 新徴組六拾人之内式人手負、内老入藤堂某強勇之

者深手ながら相手兩人打果候よし

一 桑名勢五人即死、怪我多分有之、生捕老人有之由

一 三条宿屋々々より逃去候者之内河原町長州屋敷江

逃入らんとせしを門弟入れ不申、不得止堀へ五人計

乗入らむとするを無残鐘ニ而突留候よしニ御座候

一 六日分捕長持七棹

武器并烏帽子直乘(垂有之、頭分者
用と相見之羽二重赤袴、其外麻也)

一 武具二掛九荷、内ニ結構なる具足有之、殊ニ因
 州藩之荷札三百枚計リ有之候得共、紙包等二ハ
 在所方参候物と見得、皆長州之名と申事也、尤
 其内因州・肥後等も有之、実名者銘々下帯二種々
 認置候事故相知れ候、越重藤藤カ(藤) 弓三拾張、矢式
 千本位、木炮三挺、短筒三挺、刀拾三本、脇差九本
 有之よしニ御座候

六月

右一条講武所五拾人組頭高久半之丞も
 出張之人ニ而実物語を認候を借りて写
 (二十八) 長州勢六百計廿四日入京に付、会津・新徴組・桑名勢警固
 出張に付
 一 當廿二日長州勢六百入計大坂へ着船ニ而廿四日入京

【四七頁】

一 武具兩掛九荷、内ニ結構なる具足有之、殊ニ因
 州藩之荷札三百枚計リ有之候得共、紙包等二ハ
 在所方参候物と見得、皆長州之名と申事也、尤
 其内因州・肥後等も有之、実名者銘々下帯二種々

認置候事故相知れ候、越重藤藤カ(藤) 弓三拾張、矢式
 千本位、木炮三挺、短筒三挺、刀拾三本、脇差九本
 有之よしニ御座候

六月

右一条講武所五拾人組頭高久半之丞も
 出張之人ニ而実物語を認候を借りて写

(二十八) 長州勢六百計廿四日入京に付、会津・新徴組・桑名勢警固
 出張に付

一 當廿二日長州勢六百入計大坂へ着船ニ而廿四日入京

う、抗、進、有、之、付、廿三日夜、會津・新徴組・
 桑名勢甲賀、其外何れ之勢か、老組小將、向々
 警固出張之由、會津方より加州方へ加勢被、仰
 上候得共、長州たりとも入京不相成といふにもあらず、
 何れ入京いたさせ、時宜ニより可差出との御挨拶
 二而御延引之由、右長州勢彼所此所ニ居候模様而
 已ニ而具さ不承、いかんして警固人数引候や、翌
 朝無残引取候由也、
 但長州勢ハ江戸交代杯申事ニも聞、
 又山崎・伏見
 杯ニ旅宿有、
 長州勢ハ江戸交代杯申事ニも聞、
 又山崎・伏見
 杯ニ旅宿有、

但長州勢ハ江戸交代杯申事ニも聞、
 又山崎・伏見
 杯ニ旅宿有、

【四八頁】

之趣注進有之ニ付、廿三日夜、會津・新徴組・

桑名勢甲賀、其外何れ之勢か、老組小將、向々

警固出張之由、會津方より加州方へ加勢被、仰

上候得共、長州たりとも入京不相成といふにもあらず、

何れ入京いたさせ、時宜ニより可差出との御挨拶

二而御延引之由、右長州勢彼所此所ニ居候模様而

已ニ而具さ不承、いかんして警固人数引候や、翌

朝無残引取候由也、

但長州勢ハ江戸交代杯申事ニも聞、
又山崎・伏見
杯ニ旅宿有、

長州勢
ハ

天津和泉や甚兵衛方七月廿日午刻出

昨十九日未明長人数天王山・嵯峨天龍寺に屯罷有候もの共、一時二
京都へ踏込

中野和泉や甚兵衛方一時二軍始り、大筒響渡候所、河原町長州
やしき・伏見屋敷共辰下刻火ノ手上り、内より焼候様子

御所之軍ハ追々烈敷、正午刻後手負・死人如山、鷹司殿・九条殿
丸焼、町家へ火移り東ハ寺町、西ハ烏丸迄一面之火事ニ御坐候間、

清水高基寺・粟田口・鹿ヶ谷等へ大筒打掛川東大火、西ハ
御城近邊迄焼

二字不分候得共炎上と見得候
内裏― 下鴨へ退幸、右二付正六も早拔無御坐候、合戦未

最中京中之焼原二平人一人も無之、戦人馬而已ニ御坐候、天津宿も
今にも焼拂相成可申哉案し居申候

京地關東方と長州方と大合戦、長成迄方以傳不焼拂

同日未刻出

同日未刻出

同日未刻出

同日未刻出

【四九頁】

(二十九) 天津和泉や甚兵衛方七月廿日午刻出

天津和泉や甚兵衛方七月廿日午刻出

昨十九日未明長人数天王山・嵯峨天龍寺に屯罷有候もの共、一時二
京都へ踏込

御所様御警衛御人数諸方一時に軍始り、大筒響渡候所、河原町長州
やしき・伏見屋敷共辰下刻火ノ手上り、内より焼候様子、

御所之軍ハ追々烈敷、正午刻後手負・死人如山、鷹司殿・九条殿
丸焼、町家へ火移り東ハ寺町、西ハ烏丸迄一面之火事ニ御坐候間、

清水高基寺・粟田口・鹿ヶ谷等へ大筒打掛川東大火、西ハ
御城近邊迄焼

二字不分候得共炎上と見得候
内裏― 下鴨へ退幸、右二付正六も早拔無御坐候、合戦未

最中京中之焼原二平人一人も無之、戦人馬而已ニ御坐候、天津宿も
今にも焼拂相成可申哉案し居申候

京地關東方と長州方と大合戦、長成迄方以傳不焼拂

同日未刻出

同日未刻出

同日未刻出

同日未刻出

主方所々へ大筒打掛洛中一統丸焼、只今八川東要法寺
焼失致候、栗田口無残 建仁寺無残 未夕最中焼罷在候、
十八日夜七ツ時より廿日未刻迄盛ニ死人出来恐敷御坐候、
一内裏様比叡山へ御立退被遊候趣ニ御坐候、以上

大目付

京都表乱妨人等有之
御所近く炮發出火等ニ付彼是御配慮被 思召候間當分之間神事・祭礼
鳴物等ハ見合候様、向々へ可被相達候事

大目付

去ル十九日卯刻頃方松平大膳大夫家来
御所へ致乱入、炮發致候得共諸家人數出張大凡討捕殘黨者何れへ逃去
リ共患相分方ノ次第ニ相及らば
御立退も不被為在
林平表 親王 准后御安全之御事ニ候旨京都表方注進有之候、
此段心得向々へ可被達候事

七月

【五〇頁】

夫方所々へ大筒打掛洛中一統丸焼、只今八川東要法寺
焼失致候、栗田口無残 建仁寺無残 未夕最中焼罷在候、
十八日夜七ツ時より廿日未刻迄盛ニ死人出来恐敷御坐候、
一内裏様比叡山へ御立退被遊候趣ニ御坐候、以上

(三十一) 京都表乱妨人御所近く砲發・出火等に付当分の間祭礼・神

事・鳴物見合わせの大目付達

大目付へ

京都表乱妨人等有之

御所近く炮發出火等ニ付彼是御配慮被 思召候間當分之間神事・祭礼・

鳴物等ハ見合候様、向々へ可被相達候事

(三十二) 長州藩士御所へ進入・砲發有之候得共禁裏・親王・准后安全
の旨京都表方注進有之に付大目付達

大目付

去ル十九日卯刻頃方松平大膳大夫家来

御所へ致乱入、炮發致候得共諸家人數出張大凡討捕殘黨者何れへ逃去
候哉未相分、右之次第ニ相及候得共

御立退も不被為在

禁裏 親王 准后御安全之御事ニ候旨京都表方注進有之候、
此段心得向々へ可被達候事

七月